

製品のIoT化に伴うサービス展開と認証プラットフォームの重要性

製品のIoT化が進む中で、予防保全や新機能の提供など、製造・販売・保守を超えたサービス展開が重要になっています。そのためには、製品の稼働状況やファームウェアのバージョンを正確に把握し、安全にOTA配信を行うための信頼性ある基盤整備が求められます。

本ウェビナでは、認証用証明書に代わり、独自IDを活用するIoTデバイス向け認証プラットフォーム「IoTトラストサービス」をご紹介します。あわせて、対応デバイスや構成事例も取り上げ、実際の活用イメージをお伝えしました。

納品後も続くIoT製品の課題

自社で製造・納品したIoT製品は、納品後も適切に運用・管理できているでしょうか。IoT化が不十分な場合、製品の稼働状況を把握できず、予知保全や機能アップデートといったサービス展開が難しくなります。また、OTAによる更新が適切に行われないと、脆弱性が放置されたり、誤配信によって信頼性を損なうリスクが生じます。こうした問題は顧客満足度の低下や、サイバー攻撃による被害にもつながりかねません。そのため、運用管理の効率化や付加価値の提供、安全なOTA配信を見据えた基盤整備が今後ますます重要となります。

IoTトラストサービスのご紹介

IoTデバイスにも、車のナンバープレートのような個体識別が求められています。IDを付与して管理することで、デバイスの一元管理や真贋判定、OTA配信前の認証といったセキュリティ対策が可能になります。IIJグローバルソリューションズが提供する「IoTトラストサービス」は、認証用証明書の代わりにIDを発行し、ブロックチェーン技術を活用して高い信頼性と追跡性を実現。多要素認証や自動発行、大量発行にも対応しており、既存システムとのAPI連携も可能な柔軟な認証基盤として、IoTデバイス管理の効率化と安全性の両立を支援します。

IoTトラストサービス対応製品のご紹介

テセラ・テクノロジーは、「IoTトラストサービス」に対応した製品を開発しています。ひとつは、名刺以下のサイズで扱いやすい「RA6 IoT Module for WiFi」、もうひとつは、組み込み用途に適した機能を備えた「RZ Embedded Router Board」です。いずれの製品も試作・評価から量産まで対応可能で、センサから取得したデータをクラウドに送信する構成例や、「IoTトラストサービス」と組み合わせたPoC事例も紹介されました。

■ 本日の登壇者 ■



株式会社IIJグローバルソリューションズ
ビジネスデザイン戦略室
浅野 早紀子 氏



テセラ・テクノロジー株式会社
事業推進室 室長
小山 崇之 氏

IoTトラストサービス™とは

SAIZEN+

- IoTデバイス向け 認証プラットフォームサービス
- 認証用証明書に代わるIDを発行
- ブロックチェーン技術を活用したシステム



IoTトラストサービス
出所：投影資料より一部抜粋



RA6 IoT Module
for WiFi



RZ Embedded
Router Board

出所：投影資料より一部抜粋

[他記事、ウェビナ情報はこちら](#)



エンジニアによりそうマガジンサイト